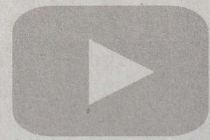


飯田伊那

里山暮らし 準備中



飯田に移住の夫婦 空き家買い取り動画投稿

草に覆われた農道の先に立つ1軒の民家。動かなくなった耕運機、おわんや布団の山……。飯田市内の空き家を買取り、こつこつと片付ける様子を動画投稿サイト「ユーチューブ」に投稿し続ける30代の夫婦がいる。2020年6月に始め、チャンネル登録者数は10日現在で11万6千人、全72本の動画の総再生回数は2300万回以上。人気を集める2人の素顔を訪ねた。



片付けを進める古民家の前で談笑する椎名啓太さん(右)と望さん

移住のトビラ

動画は
こちらから

「里山のシイナ」のチャンネル名で活動する2人は、千葉市出身の椎名啓太さん(34)と、東京生まれで妻の望さん(34)。啓太さんは地元の高校卒業後にフリーターを経て、地元の工務店で見習いとして勤務。望さんは大学卒業後に勤めたメーカーから千葉県の工務店に転職し、啓太さんと出会った。望さんは植物と庭が好きで、庭師に転身した。

信州での田舎暮らしに憧れ、19年に2人で松本市へ移住。理想の物件探しを始めた。このころから、視聴数に応

近く「片付け編」から「リノベーション編」へ

じた広告収入が見込める動画投稿を考えていた。飯田市の空き家バンクで見つけた物件は母屋が築60年近くで、蔵は約90年の年代物。ごみや植物に埋もれていたが、「動画のネタになるかも」と購入した。

動画は野鳥のさえずりや、草むららを踏みしめる音が心地よく響く。一方、ごみは木製品からプラスチック製品まで、時代をさかのぼるように出てくる。片付けが進んで民家が少しずつきれいになる様子に、コメント欄には日本語や英語などで「癒やされる」「進捗が楽しみ」「映像がまるで映画のよう」といった感想が並ぶ。視聴者は都市部の中高年男性が多いという。

撮影時は映画や絵画を参考に構図を工夫。定点カメラも置いて作業中に起こるハプニングも入れ込む。啓太さんは「ホームビデオになりかねないものを、質の高い内容にするのが大事」とする。

当初2人は飯田市を移住先に考えていなかったが、暮らして2年がたち、地域に流れる穏やかな空気を気に入っている。「方言がかわいしい、植物の種類が豊富」と望さん。啓太さんは「里山は自然と人が共存する社会の在り方として理想」と考える。

動画は近く「片付け編」が終わり、「リノベーション編」に入る。今は市内の別の場所で暮らす2人は「40歳までに住めるような環境にしたい」と話している。

伊那・美篤 飲んで知って

原料栽培から醸造まで一貫 ワイン販売

伊那市美篤の房は、美篤地区ドウで醸造したを完成させた。しんでもらうと域の人にワイン同地区に興味をうと企画。500同工房やA・コなどで販売して工房運営会社(61)は、原料栽培で地元で一貫し親しまれるワイプ指してきた。2イン産地表示基受け、原料産地